



アグノ川流域緊急修復事業

既存洪水制御施設の修復により、洪水被害の低減に寄与

【外部評価者】

株式会社コーエイ総合研究所 齋川 純子／大形 いずみ

レーティング

有効性・インパクト	a	総合評価 B
妥当性	a	
効率性	b	
持続性	b	

本事業の目的

アグノ川下流およびシノカラ川上流において緊急対策が必要とされている既存の洪水制御施設を修復することにより、洪水被害を低減させ、民生の安定と地域経済の発展に寄与する。

借款契約概要

- 承諾額／実行額：
83億1200万円／82億8000万円
- 借款契約調印：1995年8月
- 借款契約条件：金利2.5%（コンサルティングサービス部分は金利2.1%）、返済30年（うち据置10年）、一般アンタイト
- 貸付完了：2005年6月
- 実施機関名：公共事業道路省(DPWH)
- WEBページURL：<http://www.dpwh.gov.ph/>



シノカラ川護岸工事



タルラック川右岸堤防修復

本事業実施による効果(有効性・インパクト)

洪水氾濫解析では、5年、10年確率洪水による想定被害が本事業によりゼロになることが想定されている。本事業完了後、おもな台風時に、アグノ本川破堤による洪水氾濫は起きていない。

近隣住民対象の受益者調査(218人：アグノ川188人、タルラック川30人)では、8割程度が本事業による洪水／浸水の頻度・規模・被害の軽減、洪水／浸水への心配の軽減を認識している。また、本事業後に洪水／浸水のリスクといった障害が軽減されたことにより、76%(166人)の回答者が生計や仕事の改善に貢献していると回答している。その他、本事業によるコミュニティーの衛生状況の改善(82%、178人)、アグノ川右岸堤防のアスファルト舗装によるアクセス向上(89%、160人／アグノ川188人)が認識されている。

本事業の実施により概ね計画どおりの効果発現が見られ、有効性は高い。

妥当性

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに開発ニーズ、開発政策と十分に合致しており、事業実施の妥当性は高い。いずれも、人命・財産の損失を防ぐため、主要河川流域の洪水被害影響地域での洪水制御施設整備に優先度が置かれている。

効率性

本事業は、事業費についてはほぼ計画どおりであったものの、期間が計画を148%上回ったため、効率性についての評価は中程度と判断される。工事期間中に発生した台風被害箇所等の修復等のコンポーネント追加が期間延長のおもな理由である。

今後の展望(持続性)

本事業は運営・維持管理における財務上の問題があるものの、持続性はおおむね問題ないと評価される。アグノ川・関連河川の維持管理をになうアグノ洪水制御事業管理事務所の技術・体制面に問題はない一方、改善の兆しは見えないものの維持管理予算の割当・支出がここ数年激減している。

結論と教訓・提言

以上より、本事業の評価は高いといえる。本事業の効果持続のためには、本事業の修復箇所のみならず、対象河川全体の適切な維持管理が必要であり、適正レベルの維持管理費を今後も確保していくことが必須である。また、洪水被害の軽減という効果の実測が困難であることをふまえつつ、DPWHは、実際の洪水／浸水の規模・被害にかかるデータを、関係機関と連携をはかりつつ、収集・管理することが望まれる。